

(子ども発達センターニュース)

スクッピーだより

平成25年9月 調布市子ども発達センター

TEL/042-486-1190 E-mail/ ayumi@w2.city.chofu.tokyo.jp



澄んだ青空の下、心地よい風にコスモスが揺らぐ季節となりました。秋の気配を探しに、子どもたちと外に出かけるのもいいですね。

さて、今号のスクッピーだよりでは、子ども発達センターの相談事業や支援を継続するための取り組み、また、療育に携わる専門職についてご紹介します。

<相談事業>

相談事業では、

お子さんの発達についての相談に応じています。

就学前のお子さんについては、必要に応じてセンターの発達支援事業や通園事業の利用についてご紹介いたします。

お子さんが就学以降も18歳までは、保護者の方の相談をお受けしています。

相談専用電話：042-486-3200

すでにセンターを利用しているお子さんの様々な相談にも応じています。

ご家庭や生活面のこと、幼稚園・保育園・小学校のこと、センターでのこと、また、福祉サービスについてなど、相談担当にもお気軽にお声をかけてください。

子ども施設、関係機関との連携、相談等を行っています。

お子さんに関わる機関と連携、協力し、お子さんとご家庭を支援します。就学時にも必要な支援や配慮が引き継がれるよう、教育機関との連携にも取り組んでいます。

また、関係機関の職員の方を対象に勉強会や療育見学会等を実施しています。

通園事業（障害児通所事業）や障害福祉サービスを利用する際には、『サービス等利用計画・障害児支援利用計画』の作成が必要となります。センターでは、これらの計画を作成する「相談支援事業」も行っています。

相談担当まで、お気軽にお声をかけてください。

<就学支援シート>

就学のための支援シート	



就学支援シートとは、

保護者の方があらかじめ伝えておきたいこと（お子さんの特性、心配なこと、具体的な配慮など）を記入し、小学校へ伝えるものです。入学前に伝えることでお子さんの小学校の生活がスムーズにスタートできるように、一緒に考えてもらうことが可能です。

就学支援シートの作成・活用は、

1. 子ども発達センターや在籍の幼稚園・保育園でシートを受け取ります。
2. シートの左半分は保護者の方がご記入ください。右半分は子ども発達センターや在籍の幼稚園・保育園が記入します。（記入する内容は保護者の方に確認していただきます。）

3. 就学支援シートの写しを学校に提出します。(原本はご家庭でi-ファイルなどにとじて保管してください。) 提出の際は事前に学校に連絡をしていただくとスムーズです。
4. 必要に応じ、面談等で直接学校とお子さんの心配な点や配慮等について、話し合いをすすめることができます。

就学支援シートを「提出する」、「提出しない」や提出するタイミングなどについては、保護者の方の意向で決定するものです。

< i-ファイル >

i-ファイルは、保護者の方と様々な関係機関が連携、協力してお子さんを支援できるよう、お子さんの成育歴やこれまでに受けてきた支援のまとめ等をファイルしておくものです。新たに関係する機関などが増えた時に、必要なページを提示することで、お子さんに一貫した継続的な支援が提供されることを目的としています。

あらかじめファイルにとじてあるシートに必要な事項を記入します。

センターが作成した支援のまとめや目標シート、検査結果報告書、就学支援シート等をとじて保管して下さい。また、医療機関や幼稚園・保育園学校等からの書類等もとじてご利用下さい。



入園や入学、その他様々な機関を利用する際に、必要なページを提示したり、コピーを提出することで、保護者の方の心配やお子さんのことをわかってもらうための情報共有ができます。

お子さんの写真を貼ったり、その頃の記録としてスクラップアレンジしたページを作るとオリジナルな育児記録になります。



詳しくは、相談担当までお問い合わせください。

* 専門職員の紹介 *

子ども発達センターって、職員がたくさんいるけど、どんな職種の人がいるのかな？

児童指導員

言語聴覚士

保健師・看護師

保育士

心理士

事務職

理学療法士

音楽療法士

発達支援囃託員

作業療法士



センターでは、11職種の職員がお子さん・保護者の方への支援を行っています。お子さんの療育支援に直接関わる専門職は9職種ですが、今回は言語聴覚士・心理士、作業療法士、理学療法士について紹介します。



言語聴覚士：S T = Speech-Language-Hearing therapist

(スピーチ ランゲージ ヒアリング セラピスト)

心理士：= Psychologist (サイコロジスト)

保護者の方からは、「ことばが遅い」「ことばの理解に問題がある」「どもる」といった言語面や、「コミュニケーションが一方的」「集団行動がとれない」「友達と遊べない」といった対人・コミュニケーション面について、その他「耳の聞こえが心配」「こだわりが強い」「落ち着きがない」などのご相談があります。

言語聴覚士、心理士は、お子さんの発達をことばだけでなく総合的にとらえ、お子さんの得意な部分をさらに伸ばし、苦手な部分の発達を促すような指導を行います。中でもお子さんの自主性、興味を尊重しながら指導を行うのがセンターの基本姿勢です。

作業療法士：O T = Occupational Therapist (オキュペーショナル セラピスト)



「作業療法」の名称は、英語の「Occupation」ということばからきています。「Occupation」にはその人にとっての“楽しみ”や“生活の一部”など“有意義に時間を費やす”という意味が含まれています。子どもたちにとって“意味のある時間の費やし方”といえば、やはり「遊び」です。作業療法士は、「遊び」の中にあるさまざまな要素を考えながら、子どもたちが“新しい発見をして、おもしろくて、うまく行って、もっとやりたくなる！”を実践することで、運動機能や活動能力、適応能力や社会的能力などの育ちを支援します。

また、子どもたちの日常生活動作（食事、排泄、入浴、整容など）についても注目し、快適な生活のために一緒に考えていきます。

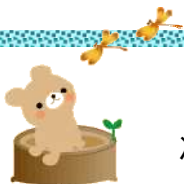


理学療法士：P T = Physical Therapist (フィジカル セラピスト)



「理学療法」とは、お子さんの場合、基本的動作・粗大運動（首がすわること、お座りをすること、はいはいすること、歩くこと）の獲得・発達促進を図るため運動をもちいて援助することをいいます。お子さんは、遊ぶ・楽しむという目的のために、座る・動くなどの手段を獲得していきます。そのため、理学療法においても遊びたい・楽しみたいという気持ちを引き出すことが大切です。座りたい、歩きたいという意欲を持ってもらうために、楽しく、生活に取り入れやすい遊びをとおして、運動機能がのびるように支援していきたいと考えています。

また、将来的に関節が変形したり硬くなる心配があるお子さんに対しては、ストレッチ等をもちいてこれらの予防・軽減に努めます。その他身体（関節や筋肉）に負担をかけてしまう姿勢や、動き方をするお子さんに対しては補助具の使用や、身体の使い方の改善など、負担の軽減を図る支援をします。



次号も、その他の職種について紹介していきます。



イベントの
お知らせ!!

平成25年度 子ども発達センター

センターまつり

【日時】 平成25年10月26日(土)

午後1時～4時 午後1時30分 催し物開始

【会場】 調布市子ども発達センター 館内

みんなきてね



お祭りの雰囲気の中で、家族やお友達と楽しいひとときを
過ごしてみませんか。楽しいイベント、ゲームコーナー、販売などがあります。



当日は、「たづくり」〔発達センター〕の
臨時送迎バス もあります。



詳細は、発達センターにあるチラシをご覧ください。



* 編集後記 *

今号から、センターの職員紹介をシリーズにてお届けしています。館内には職員紹介の写真を掲示していますので、「あの先生はどこかな?」とぜひご覧になって下さい。センター職員をより身近に感じていただければと思います。

10月26日(土)センターまつりがあります。ご家族で楽しいひとときをお過ごしいただければと職員一同、はりきって準備しています。ぜひ、遊びに来てください。

